

平成16年7月12日(月) AM1=55 第2子=女 出産 3600g

~康乃先生と出会って~

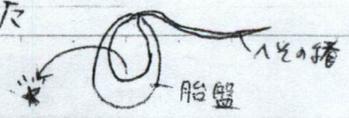
初めに見学のためTelした時の第1印象は(声でか...)「やさしい声をした人だなぁ」でした。そして見学に行った時 穏やかな声と話し方とは、反対に自然分娩に打てる熱いさに「ここなら安心!」と思いました。でもその時は、まだ「自然に生む」ということを理解しきれていなかったと思います。

診察を重ね、先生の話を聞くたびに自然分娩の事や良さがわかり、きた気がします。

~陣痛から出産まで~

私<sup>2</sup> 産まれないかと思っていて私は、夕食後、夫と娘の3人で田島へ...  
7<sup>2</sup>頃から家へ帰る車の中で お腹がほり、少し収縮ある感じが、(この時5分間隔)家に着き、痛みが増していくが、前駆陣痛かとも思っ様子を見る。が歩いても痛くなってきたので 夫に「きたかも?」と言うと、「あれ、遅れるんじゃないの?」と夫。シャワーや入院準備を始め、0:03に先生へTel、症状を伝えると「内診してみようね。気をつけていらして」とのこと。夫が準備している間ソファの上で陣痛と闘う。車の中では、2~3分間隔で痛みが押し寄せ、夫がずらとお腹をさす、ていてくれた。とても気持ち良かった。1:00頃到着し、そのまま分娩台へ。内診すると、子宮口は5cm「あ〜あと5cmもあるんでよ〜」とつい口をでてしまふ。痛くて「先生〜 先生〜」という私に、先生は腰をさす、てくれる。あのちょうど良い力加減、とても気持ち良くて「魔法の手」かと思いました。「痛い!」と叫んでいる私に先生は、「痛いわねー、この痛みつらいのよ〜」とやさしい声で答えてくれ、8cm開き「あと2cmもあるよ〜」と、思っていると「もう少したからね」と言ってくれる。その言葉(声)に落ちつき、安心する私。そこにすぐ陣痛はやってきて、前の陣痛が終わらないうちに次の陣痛が! それをくり返しているうちに、いきみたくなりその10分後、出産。赤ちゃんの大きな泣き声が聞こえ、ホッと安心する。先生が私のお腹の上に赤ちゃんをのせてくれる。体は紫色、こら良い体温なんともいえない感覚だった。へその緒を夫に切ってもらおうと思ったが、長女が大泣きで切れず... ちよと残念も その後胎盤を見せてもらった先生は、「赤ちゃんは、ここから出てくるのよ」と教えてくれた

津



胎盤サニ、今まで赤ちゃんを育て守ってくれてありがとう。

部屋に行くと夫、長女、夫の両親がいて「おつかひ様」と言ってくれ、只々うれしかった。長女は赤ちゃんに「よしよし」とお腹をトントンしていたとも興奮しているようで、そのあと私の所へ来て「ママいたいたいたい？」と自分のおなかをおさえていた。

自分では、もっと長くなると思っていたので陣痛から4時間と入産出産まで

～ お礼 ～

妊娠中は、いろいろばかりでしたが、出産して久し振りにいかに和らいたか感じがします。長女の子守りをしてくれた義母さん、義父さん、両親。一生懸命留守番をしていたであろう長女。そして、なかなかに子守りに奮闘していたであろう愛いタナ様。本当にありがとう。

最後に康乃先生、干ヨさん夜中の出産でお世話かけました。

先生には、毎日おいしい食事のおかげで赤ちゃんに良いおっぱいをあげる事ができました（献立、食材、切り方、味付け、色どり、器と、とても勉強になりました）。先生の「おっぱいマッサージ」とても気持ち良かったです。そして干ヨさん、部屋の清掃に淋浴など色々ありがとうございました。干ヨさんの淋浴で安心している我が子を見て「私大丈夫かな？」と不安になりましたが、がんばります！

本当にありがとうございました。これからも「自然に産むことの良さ」を皆様に教えていらしてくださいね。

H16.7.16(金) 五+嵐